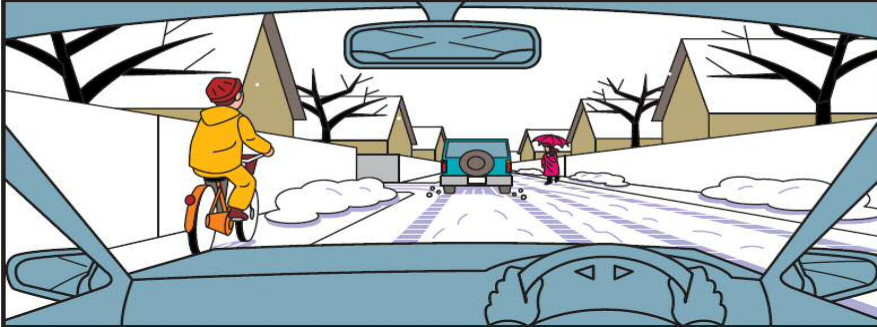


「急いでいるときこそ一呼吸 譲る気持ちで運転を」 H26年度最優秀交通安全標語
安全運転のポイント

雪道にはさまざまな危険が潜んでいます。今回は、運転席から見た交通場面のイラストを基に、雪道の危険予測運転について考えてみましょう。

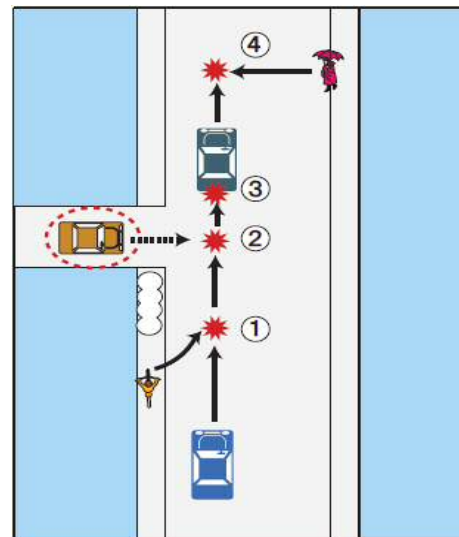
小雪の舞う雪道を走行しています。この場面にはどのような危険があるでしょうか。



■主な危険の内容

この場面での主な危険を挙げてみましょう。(右図参照)

- ①前方左側の歩道を通行している自転車が前方の雪のかたまりを避ける為に車道に進路を変えてくる。
* スリップして車道に出てきたり、車道に出た後に転倒する可能性もあります。
- ②前方左側の脇道から車などが飛び出してくる。
* 積雪の為に路面が滑りやすくなっており、手前で停止しようとしても停止できずに交差道路に進入してくる可能性もあります。
- ③前方右側の歩行者が道路を横断してきたために、前車が停止する。
* 歩行者がいなくても、雪でタイヤをとられるなどにより急停止する可能性もあります。
- ④前車の通過後に、歩行者が道路を横断してくる。
雪道はスリップしやすいため、車にとって走りにくい道路ですが、歩行者や自転車にとっても同様にたいへん通行しにくい道路です。その点をしっかりと理解しておくことが大切です。



■事故を防止するための危険予測のポイント

■自転車が急に進路を変更してくる

雪道での自転車は不安定で、スリップして転倒することがよくあります。そのため走りやすいところを選んで走行する傾向が見られ、歩道や車道の左端が雪で通行しにくい場合には、後方の確認もせずに車道の中央に寄ってくる場合があります。

又、雪にタイヤをとられて滑るだけでなく、車道にできたわだちたにタイヤを取られて、バランスを崩したり転倒することがあります。

側方や前方を自転車が走行しているときは、スピードを落とし自転車の動きに十分注意しましょう。



■歩行者の歩行速度が遅くなる

積雪した路面を歩く時、歩行者の注意は足元に向いてしまいます。そのため周囲に対する注意が薄れがちで、車の接近に気付くのが遅れることがあります。雪道に足をとられた歩行者が転倒することもよくありますから、側方を通過するときはスピードを落とすとともに、十分な側方間隔をとりましょう。

又、路面が滑りやすいために歩く速度がかなり遅くなり、道路の横断に時間がかかります。信号機のある交差点の場合は、信号が赤になっても渡りきれないことがありますので、前方を歩行者が横断しかけている時は、横断に時間がかかるということを頭に入れて、スピードを十分に落として進行しましょう。



■積雪路面は停止距離が長くなる

積雪路面では停止した前車に追突するという事故が多発します。又、赤信号の交差点で停止できずに交差点内に進入してしまったり、T字路で一旦停止しようとしたにもかかわらず手前で停止できずに交差道路に進入してしまうことがあります。

積雪路面がどのくらい滑りやすいのかについては、タイヤと路面状態によって異なります。したがって、「これくらいで止まれるだろう」と安易に考えるのはたいへん危険です。

雪道での停止距離は思っている以上に長いかもしれないと考えて、常に十分な車間距離をとって走行しましょう。

